
君がいて

鬼道 邪鬼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
君がいて

【Nコード】
N0021Q

【作者名】
鬼道 邪鬼

【あらすじ】
今こうして、僕が社会に出る事が出来たのは、
【君】のおかげだ。

登校

僕は今、普通のサラリーマンをやっている18歳の「竹田駿希」タケダ シュンキ」なんのへんてつもない僕だけど、中3までの僕には考える事が出来なかった。

『君がいたから』 あれは、中2年の時だ。

僕はまだ、恋をした事がない。なんせ、僕は女子に話す事が出来ない、恥ずかしがりやなのだ。

そういう時間を13年続けた、僕には、あり得ない事だ。今日も、そういう1日を過ごすと思っていた。

朝起きて、いつもの学校の準備。

『学校ってなんであんだろ?』

僕は、学校の準備をしながら、つぶやいた。

そして、朝食を食べるために、階段を降りた。

『あら、おはよう。朝食出来てるわよ!』

母が朝食を食べながら言った。僕は朝食を食べ、学校へと出発した。

『オッス! 駿希!』 と、後ろから、馴染みのある声が聞こえた。

『おはよう。武』

僕はその馴染みのある声のほうへ、言った。『よっ! 相変わらず元気じゃないねえ (笑)』

こいつは「広瀬 武 ヒロセ タケル」僕の小学からの友達。
いわゆる、「腐れ縁」ってやつだ。

明るくて、元気がとりえなやつ。
まあ皆から人気があり、いいやつだ。

『お前が元気すぎんだよw』

『そつかあ？まあいいや、早くしないと学校遅れんぞ！！』

『別に勉強しに学校行かなくてもいくね？』

『はあ？何言ってるんのお前？学校は女の子に会いに行くところだろ？』

…うわw こいつ最低だあw

『ほら、行くぞ！』

『…おっ』

こんな感じで僕は、学校についた。

日常の変化（前書き）

僕たちは自分たちの教室である2 - Fのドアを開けた。

『オッス！皆！』

武はいつもの決まり文句で言った。

『おはようw』

これも、いつもの皆が言う。

で、多分次は、

『おはよう、武ルウウ！！』
ほらキタ…

『おはよう渚』

武は満面の笑みを浮かべて言った。

『今日もギリギリだね！』

『渚が早い』

『そうかなあ？』

始まったLoveトーク…

この渚というのは武の彼女、女子からも男子からも人気でClass
s公認カップルだ。 噂では、許嫁とか…

『武、僕行くから』

『あ？ああ』

武は満面の笑みで、うなずいた。

僕は、その場から立ち去った。
だってそうだろう？

僕女子と話した事ないし、話しかけられたら困るからさ……

『駿希君、いつも私きたら立ち去るよね……、私の事嫌いなのかな……』

渚が悲しい顔で言った。

『あいつ女子にはああだぜ？小学校から女子と話した事ないみたいだしw』

『それ本当？』

『嘘ついてどうすんの……』

『へえ、じゃあ私が話せるようにしてあげる！』

『まじかッ！あいつなかなかきびしいとおもっぞ？』

『大丈夫！駿希君の事好きな子沢山いるのよ？実を言うと、ファンクラブなんてあるんだから（笑）』

『嘘……じゃあ俺のは？』

『ないに決まってるじゃんw』

『……』

かなり武は落ち込んだようだ。

『まあそれはいいとして、その子たち使って、話せるようにしてあ

げる
『

渚…怖
』

今、止まった時間が動き始める。

日常の変化

僕は今、普通のサラリーマンをやっている18歳の「竹田駿希」タケダ シュンキ」なんのへんてつもない僕だけど、中3までの僕には考える事が出来なかった。

『君がいたから』あれは、中2年の時だ。

僕はまだ、恋をした事がない。なんせ、僕は女子に話す事が出来ない、恥ずかしがりやなのだ。

そういう時間を13年続けた、僕には、あり得ない事だ。今日も、そういう1日を過ごすと思っていた。

朝起きて、いつもの学校の準備。

『学校ってなんであんだろ?』

僕は、学校の準備をしながら、つぶやいた。

そして、朝食を食べるために、階段を降りた。

『あら、おはよう。朝食出来てるわよ!』

母が朝食を食べながら言った。僕は朝食を食べ、学校へと出発した。

『オッス! 駿希!』と、後ろから、馴染みのある声が聞こえた。

『おはよう。武』

僕はその馴染みのある声のほうへ、言った。『よっ! 相変わらず元気じゃないねえ(笑)』

こいつは「広瀬 武 ヒロセ タケル」僕の小学からの友達。
いわゆる、「腐れ縁」ってやつだ。
明るくて、元気がとりえなやつ。

まあ皆から人気があり、いいやつだ。

『お前が元気すぎんだよw』

『そつかあ？まあいいや、早くしないと学校遅れんぞ！！』

『別に勉強しに学校行かなくてもいくね？』

『はあ？何言ってるんのお前？学校は女の子に会いに行くところだろ？』

…うわw こいつ最低だあw

『ほら、行くぞ！』

『…おっ』

こんな感じで僕は、学校についた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0021q/>

君がいて

2011年1月11日20時58分発行